

東洋大学学術顧問・名誉博士

ドナルド・キーン氏の日本人に刺さるコトバ

Message stimulating the Japanese mind from Dr. Donald Keene,
Scholarly Adviser and Honorary Doctor of Toyo University



東洋大学の掲げる柱のひとつ「国際化」に欠かせないキーマンのひとり、ドナルド・キーン氏。

彼の発言や講演には東洋大学はもとより多くの日本人にとって

「自国の文化を理解する」意義を教えてください。

さまざまな面で国際化、ボーダレス化が進む社会のなかで自分の殻に閉じこもることなく、

他者との関係を築き国際人として活躍する秘訣は何でしょうか。

価値観が多様化する現代において、この問いに明確な答えを提示することはできません。

しかし、国際社会で日本人がどのような役割を担うべきかを考えるとき

日本と日本文化をこよなく愛し、これまでの日本への感謝を心から示したいと

東日本大震災直後に日本永住を表明したドナルド・キーン氏のコトバには

相互に理解し合い、多様な価値を尊重する真の国際人へのヒントが込められています。

2012年5月26日(土曜日)

東洋大学 講演会

「国際化時代における
日本古典文学の可能性」

あいまつねは

日本の古典文学の

美徳

日本の古典文学の魅力について、自身の体験を交え、西欧と比較しながら「西欧の伝統ではあいまつねは文章の欠点とされるが、日本の古典文学ではあいまつねは美徳」であると語った。「枯枝に鳥のとまりたるや秋の暮」という松尾芭蕉の俳句を挙げ、鳥は一羽か複数か、秋の暮れは晩秋か秋の夕暮か、などさまざまな解釈があることを例示。あいまつねはが限らない想像の世界を与えてくれることが、日本の古典文学の楽しさであると魅力を語った。

先入観や偏見にとらわれず、 本質的な思考を身につけることが、 東洋大学でいま学ぶべき意義

国際社会の中での日本の役割を考えると、日本文学研究の権威者のコトバは、心強い道標になるでしょう。コロンビア大学の学生時代に英訳の「源氏物語」に魅せられて以来、70年以上にわたって日本文学研究を深め、その第一人者として、世界に日本文化を広めたドナルド・キーン氏。東日本大震災を契機に日本国籍を取得し、日本への永住を決意したことでも知られるキーン氏は、東洋大学の名誉博士です。日本を愛し、日本への感謝から日本人とともにいることを決意したドナルド・キーン氏の目に、明治時代以降、近代化の道を進んできた日本はどのように映っているのでしょうか。

「私が初めて日本を訪れたのは1953（昭和28）年。日本はその頃とは様変わりしました。今、日本を初めて訪れる人は、欧米と変わらないと感じるでしょう。和服の人は少なくなり、伝統的な日

本家屋に住んでいる人は減り、マンションに住む人が増えました。しかし、美意識は変わっていません。

東日本大震災でも見られた規律の正しさは、日本人の変わらない美徳です。大地震、津波、放射能……他の国民だったら日本人のような落ち着いた態度を取るのには難しかったでしょう。それを見た海外の人々には今までにも増して親日感情を芽生えさせました。そういった意味からも、日本が外国に影響を及ぼすのは、日本人の根底に流れている美意識なのです」

では、日本の伝統文化の根底にあるものの見方、考え方とは果たして如何なるものなのでしょうか。

「日本の伝統的なもので、特長のあるもの、他の国との違いがあるのについて一例を挙げましょう。

古代ギリシャ人は永遠に残るように石で神殿を作った。彼らは変わることを、古くなることを嫌ったからです。しかし、日本は古くなることを喜ばしいと思う文化です。古くなること、カタチが変わることには無常感が伴います。

日本人が桜を愛でるのは、そこに無常感を見出しているからです。もし永遠に花が散らなかつたら美しさを感じないだろうし、つまらな

2011年10月16日(日曜日)

東洋大学 特別授業

日本に腰を落ち着ける
ことができたら、
ぜひ日本文学を後世に
伝えられるような
大作をじっくりと
執筆したい

東日本大震災直後の2011年4月、「大震災の被害に心をいたため、その連帯を示すためにも、大好きな日本に住み続けた」と決意を表明していたキーン氏。その言葉と潔い行動力に、多くの日本人が勇気づけられた。また、「日本国籍を取得したら、日本国籍を取得したら何をしたいか」という学生からの質問に、「日本文学を後世に伝える大作を執筆したい」と答え、89歳にして尽きない探究心に参加者はみな襟を正した。

2011年11月26日(土曜日)

ドナルド・キーン博士

名誉博士称号授与記念講演会

「王朝の美意識」

『源氏物語』のような、

はかなさを美とする文学は
ヨーロッパには存在しない

それぞれの民族にはそれぞれ、美意識がある」と説明。原始人は独自の絵を描き、5000年前の中国では洗練された陶器が作られ、中世ヨーロッパの貴族の城は、美しいタペストリーを飾って壁の冷たさをしのいだ。そうした「美」の象徴の多くは金銀や鉱石をあしらうなどして華やかなものや永遠に残るものを目指す、いわば権力を誇示する「男性的な文化」だった。『源氏物語』のような、11世紀に女性の手によって書かれたはかなさを美とする文学は当時のヨーロッパには存在しないと語った。



2012年3月、日本国籍を取得。自らを「鬼怒鳴門(キーン・ドナルド)」と称した。

2011年11月26日(土曜日)

ドナルド・キーン博士

名誉博士称号授与記念講演会

「王朝の美意識」

余韻を大事にする。

これも日本独特の
美意識である

さまざまな悉模様が描かれる『源氏物語』。隙間から見えた着物の裾の色味や、交わす「手紙」に日本独特の美が描かれていると語った。西洋では創造力の欠如とみなして「類似を避ける傾向があるが、日本ではむしろ「本歌取り」等の技法で、これまで美しいとされてきたものを尊重し、それを活かしてよりその深さを味わうことが大切にされる文化である」と説明。一部を利用するなどして余韻を大事にすることに日本独特の美意識があると解説した。

2011年9月16日(金曜日)

東洋大学 特別授業

グローバル化に よって

固有の文化が 失われるとしたら、 それは取り返しの つかないこと

同日の講義では、欧米化を免れているミャンマー連邦共和国と、彼らの美しい服飾文化であるビルマ服を例に挙げ、固有の文化の重要性を訴えた。先進国から賃金の安い国へと雇用が流れることで、先進国では失業が増え、雇用の担い手側の国もその固有の伝統文化を失うという悪循環に対し、世界の均一化が秘める暗の部分に警鐘を鳴らした。

くなる。命の短さが、美しさに気付かせてくれるということ、日本人は知っているのです。

また、日本人ははっきりしたものを嫌い、ぼかしのあるものを好みます。源氏物語は「いずれのおんときにか」(いつだったかわからないけれど)と不明瞭な記述で始まりますが、他の国の小説にこのようなあいまいな表現の始まりは存在しません。このことがやがて、不完全を許容する日本文化になっていきます。

日本人は生涯を通じて、神道、仏教、儒教と三つの異なる宗教の中で生きます。子どもが生まれたらお宮参りをし、教育は儒教の精神を重んじ、死ぬときは極楽へ行くために仏教式の葬儀を行う。これは異なる価値観を認め、合理的というよりは情緒的に人と関わり合う日本人の倫理観であり、それらが優れた美意識につながっているのです

東日本大震災以降、日本は文明の転換期を迎えたといわれています。その視点に立って、改めて日本が国際社会に何を発信し、どのように貢献すべきなのかをキーン氏は示唆します。

「数年前に中国を旅行しました。中国人は一時仏像を壊してきましたが、今はその価値を見直し、作り直しています。ところが新

たな仏像はコンクリートできていて、顔は緑色。私の心には響かないのです。私は「どうして日本人を呼ばないのか。日本人なら今すぐにでも復元できるのに」と思ったものでした。

日本独特の美意識。それを発展させたら世界に貢献できることは限りなくあるはず。世界はそれを求めているのです。

ある日本人はもっとモダンなものを欲しがるかもしれない。しかし、古い文化を知らなければ肯定も否定もできない。幸い日本には万葉集の時代、1300年も前から素晴らしい文化が存在しています。大学生のうちにそれら多くの日本文化や文学に触れるべきです」自国の文化を理解しなければ、他国の文化を尊重できない。これは「諸学の基礎は哲学にあり」と伝えた東洋大学の創立者・井上円了博士の建学の精神にも通じます。先入観や偏見にとらわれず、本質的な思考を身につけることが、グローバル時代において、今こそ学ぶべき意義なのです。

東洋大学特別講義「現代のグローバル化社会における日本の伝統文化・思想の意義について」より再構成

TOYO UNIVERSITY 2012 伝統を未来に

2011年9月16日(金曜日)

東洋大学 特別授業

東山魁夷の 日本画は 外国の影響を 受けていなければ、 こうは面白く ないだろう

「たとえば水墨画と西洋絵画を両方学んだ日本人から生まれた作品を、日本人としての新しい美意識と認めるか」という学生からの問いに対して、キーン氏は「大いに認める」と答えた。親交のあった日本画家の東山魁夷を例に挙げ、「彼の絵は日本画ではあるけれど、江戸時代の日本画とは違う。明らかに西洋絵画の影響を受けていて、その影響を昇華しているからこそ魅力がある」と語った。